

東アジア文化都市の 沖縄での開催を！

2021年 那覇市市政100周年と連動した
新しい都市像の形成と発信の機会に

一般社団法人 **クラブ沖縄**

はじめに

当法人、一般社団法人クラブ沖縄は、文化の振興やまちづくり活動に取り組む人々をつなぎ、支援する活動を通じ、沖縄で創造的なまちづくりが行われることを支援しようと本年4月に立ち上げたばかりの団体です。

私たちの活動開始は2年前に遡ります。沖縄県文化振興会からの補助事業や、またメンバー各人の個人活動としても、日本国内や世界各地のまちづくりの事例を調査してまいりました。

中でも、「欧州文化首都」や「東アジア文化都市」など、地域の文化を中心に再構築された都市再生の取り組みに非常に感銘を受け、こうした取り組みがあることを、沖縄のみなさんにも知っていただこうと、この2年間、セミナーやシンポジウムの開催を重ねてきました。



2015年2月18日開催のシンポジウム
「東アジア文化都市NAHA開催をめざして」

これらの活動を通じ、私たちは「東アジア文化都市」を沖縄に誘致し、それをきっかけに、沖縄のすがたを再発信することができるのではと考えるようになりました。

この資料は、これら調査やセミナー開催を通じ、得てきた情報をまとめ、近く那覇市へ提出を計画している提言の概要版です。

私たちの思いが少しでも伝われば幸いです。

東アジア文化都市とは

(文化庁HPより)

「東アジア文化都市」は、日中韓3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化から伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、当該都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としています。

東アジア文化都市の開催都市

開催年	日本	中国	韓国
2014	横浜市	泉州市	光州広域市
2015	新潟市	青島市	清州市
2016	奈良市	?	?
2017	京都市	?	?
	以降、未定		

東アジア文化都市の1年間で開催が想定される事業（文化庁による例示）



東京オリンピック 文化プログラム

近年のオリンピックの招致には、文化面でのプログラムの充実も重要視されています。ロンドン（2012）がライバルであったパリに勝ち、五輪を招致できたのは、文化プログラムの提案が決めてであったと言われています。

東京五輪では、2016年リオ五輪の終了と同時に文化プログラムを、日本全国で開始することを文化庁は計画しており、4年間の総プログラム数の目標を20万件、訪日観光客数を2000万人とすることを発表しました。

沖縄からもプログラムを提案し、実施することで、新たな観光客を呼び込めるチャンスがあります。

欧州文化首都とは

「真のヨーロッパ統合には、互いのアイデンティティとも言うべき、文化の相互理解が不可欠」というギリシャの文化大臣メリナ・メルクーリ（当時）の提唱により、1985年にスタートした制度。以来、EU加盟国の中から毎年2都市を「欧州文化首都」として定め、一年間を通して様々な芸術文化に関する行事を開催しています。

これまでの開催都市が「創造都市」の考え方の元、都市計画の再構築による都市アメニティの向上や、観光客の増大、コミュニティ再生等の地域課題の解決など、大きな成果を得ていることから、単なる文化イベントではなく、「都市が変化するための触媒」「都市の長期的文化発展戦略」と考えられています。

日本においても「創造都市」の考え方は注目を集め、多くの都市が文化芸術を軸とした都市政策へと向かっています。東アジア文化都市は、欧州文化首都をモデルに始まった制度です。

横浜市



- 2002年から「文化芸術振興」や「創造的産業振興」といったソフト施策と「まちづくり」などのハード施策を一体的に取り組む「文化芸術創造都市=クリエイティブシティ」の取組を進めてきた。
- 「創造界隈」の形成では、近代建築を保存しながら使い、クリエイターの誘致と、横浜らしい景観形成を行っている。
- 旧赤線地域であった黄金町にアーティストの滞在・居住を進めたことで、地域のイメージを一変。
- 「ヨコハマトリエンナーレ」は、2005年にスタート。日本で最も注目される国際美術展となり、2014年は19カ国の作品を展示し、約21万5千人を動員した。
- 2014年東アジア文化都市では、192プログラムを実施したが、市主催事業はわずか5件。これまでの「創造都市政策」の集大成とも言える内容となった。



ヨコハマトリエンナーレ 2014

新潟市



- 「田園都市」をキーワードに、総合計画を再編。グリーンベルトを維持するための都市計画を推進している。
- 農業や花卉業の振興を目的に、総合体験施設「いくとぴあ花食」「アグリパーク」を整備。
- 商工会議所と連携した「にいがた食の陣」「にいがた淡麗酒の陣」など食のイベントを実施。
- 海運における日本海側の要所として発達した芸妓文化や、舞台芸術の振興にも力を入れている。
- 2009年から3年に1度開催している国際美術展「水と土の芸術祭」が、コアプログラム。
- これら取り組みを「米の食文化」として統合し、ユネスコ創造都市ネットワークへの登録によって、都市ブランドの形成を図っている。



にいがた食の陣
会期中は、街中に
屋台が立ち、
新潟の食を堪能
できる

マルセイユ=プロバンス (フランス)

- 貿易港として栄えたが、近年はその優位性が失われ、貧困や失業などの問題を抱える。また移民も非常に多く、人種問題も生じている。
- 文化によって地域課題を解決することを明確に打ち出し、またマルセイユ単独ではなく、周辺97都市（合計人口170万人）との共同開催の形をとった。
- 開催に合わせて建設あるいは改修した文化施設は60以上。
- この地域への観光客は「地中海の自然」が目当てであったが、欧州文化首都の開催で、地域の文化をアピールし、新たな観光客の獲得をめざした。
- 文化インフラの整備と、実施プログラムを通じ、観光客の増加につながり、新たな雇用が生まれた。

写真家によるアートプロジェクト「Unfamed」
地域住民の顔写真を、建物の壁へプリントしている。このエリアは貧困世帯の多い地域で、都市課題の顕在化と地域の誇りづくりがこのプロジェクトのテーマだった。



ヘルシンキ (フィンランド)

- 1990年代、フィンランド全体の不況を打開しようという機運が生まれ、その起爆剤として欧州文化首都に立候補した。
- 503のイベントに、504万人が参加。
- 開催のために新規に建設した建物はない。
- 欧州文化首都の開催により、文化的な個性を発信することができ、外国人観光客の増加した。
- 市民・民間との協働イベントの経験ができ、公共サービスのあり方にも変化が出た。
- 開催後も街全体で行うイベントが増え、例えば「ユーロビジョン」という欧州最大級の音楽イベントの誘致も実現した。
- 2012年の世界デザイン首都にも選ばれ、2014年に「ユネスコ創造都市」にも認定された。

ケーブルファクトリー
ケーブル工場跡を活用した、アートセンター兼クリエイティブ産業のオフィス



アンナンタロ・アーツ・センター
廃校となった小学校校舎を活用した、子どものためのアート体験施設

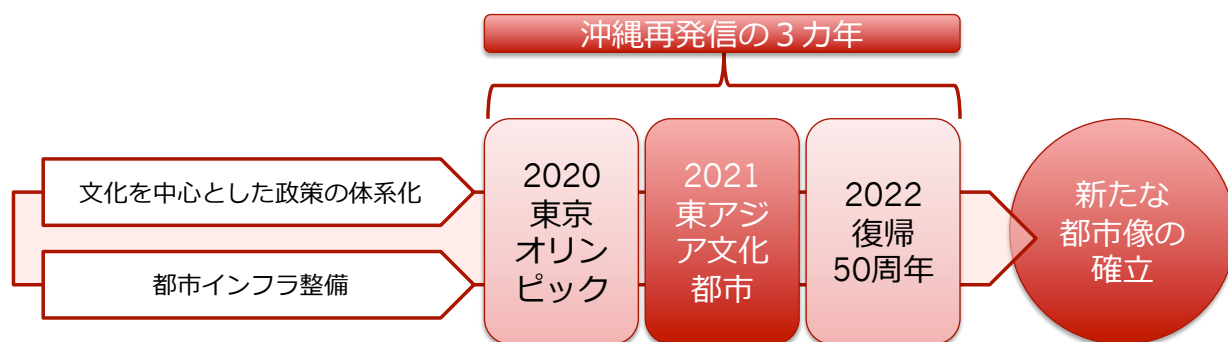
那覇／沖縄の
新たな都市像

文化交流による平和創造都市

琉球沖縄文化は、かつて琉球王朝として行った国際交流・交易、そして幾度も乗り越えてきた「世変わり」を通じ、多様な文化を受容し、昇華することによって育まれてきました。沖縄のこの歴史的経験と文化のあり方は、グローバル化による社会や経済の変容、あるいは近年の国際情勢の不安などに直面する、世界中の人々・都市に希望を与えるものと確信します。

沖縄が、その歴史的経験と独自の文化を国際社会に発信し、また多様な文化が集い、交流する都市となることで、国際社会における相互理解の促進による平和への貢献をめざす、「文化交流による平和創造都市」をめざすことを提言します。

また、この都市像の形成のため、2020年東京オリンピック、2022年本土復帰50周年、そしてそれらに挟まれた2021年に東アジア文化都市を誘致し、この3カ年を沖縄の再発信の契機とすることを提案します。



文化交流による平和創造都市の実現にむけて

提言 1 沖縄の文化発信のための基盤づくり

- ・新那覇市民会館の開館を見据えた文化芸術政策の立案
- ・創造都市ネットワーク日本への加盟
- ・東アジア文化都市への立候補

提言 2 文化政策と観光政策の一体化

- ・文化を中心とした新たな観光政策の立案
- ・2020年から2022年までの沖縄再発信の3カ年に向けた、推進体制の構築

提言 3 文化を中心とする都市デザインとその推進体制の整備

- ・地域文化、市民文化が育まれる都市デザイン
- ・官民一体となった推進体制の構築